

石那田のお天王さん 名前を変えた神様・神社

宇都宮伝統文化連絡協議会顧問 柏村 祐司



境内に参集した屋台



間夜の中の本祭り

石那田の八坂神社の夏祭りは、絢爛豪華な彫刻屋台がにぎやかに繰り出す祭りとして知られる。地元ではこの祭りを「おてんのさん」と呼び親しんでいる。

おてんのさんの呼び名は、もともとご祭神を牛頭天王としたことによるもので、神社の名前も天王社であった。言い伝えによれば、石那田の天王社は、明暦元（一六五五）年石那田一帯に疫病が流行った折に京都の祇園社より神霊を勧請し、石那田の上・下両村の境に祀ったのが始まりとされる。現在の祭りは、享保七（一七二二）年に再び疫病が流行ったことから行われるようになったといわれる。

こうした由緒ある神社にもかかわらず神社の名前が八坂神社、ご祭神が素戔嗚尊へと変わったのは明治初期のことである。明治新政府は、それまでの封建的な江戸幕府の体制を改め、新政府に相応しいさまざ

まな改革を行った。その一つに宗教政策があった。神道を国家の宗教とし、それまで神仏が一体となつて信仰されていたのを「神仏判然令」により神仏分離を断行したのである。この明治新政府の神仏分離政策は、やがて廃仏毀釈運動を引き起こした。

ところで牛頭天王は、もともとインドの祇園精舎の守護神であり、わが国へは仏教と共に伝わり、疫病を除ける神様として信仰されるようになった。仏教とともに伝わった牛頭天王の信仰は、神仏分離の矢面に立たされ、石那田のみならず全国各地に祭られる天王社あるいは祇園社は、ご祭神・神社名を変えるやむなきに至つたのである。ご祭神は、素戔嗚尊とされた。日本古来の神の中で素戔嗚尊は、荒ぶる神である牛頭天王に相応しいとされたからである。神社名はその多くが八坂神社と名乗つた。それは天王社あるいは祇園社の本家である京都祇園社が、祭つてあ

る所の土地の名前を取つて八坂神社と改名したのになつたからである。ほかに八雲神社、須賀神社と改名したのも多い。八雲や須賀の名は、素戔嗚の命に関係するもので、乱暴者の素戔嗚尊は高天原を追われ出雲の国へと移つた。そこで八岐大蛇を退治して櫛名田姫を妻に娶つた。須賀の地に行き新居を構え、そこで「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣作る その八重垣を」と歌つた。という神話に基づいたものである。

さて、話を石那田の八坂神社に戻そう。夏祭りはご神体を神社本殿より日光街道沿いにある御飯屋に遷す「下遷宮」から始まる。ご神体は一週間御飯屋に安置され、最終日に神事と、引き続き当番引き継ぎ式が行われ、その後ご神体が本殿へ戻る「上遷宮」となり、本殿に戻つたところで本祭りが行われ一連の祭りが終わる。

この夏祭りの呼び物は、上遷宮の際の彫刻屋台の奉納である。間夜の中提灯の明かりで浮かび上がる六台の彫刻屋台。それぞれの屋台に乗り込み互いに負けじと奏でお囃子。石那田の人々が篤く信仰してきた鎮守社の祭りならではのものがある。

神仏分離から百五十年近くなる。それでも石那田では、この祭りを今なお「おてんのさん」と呼ぶ。長きにわたつて信仰し、なれ親しんできた鎮守社への氏子の意識は簡単には変えられないのである。